

げんじ
屏風 源氏の画



京都御所 春の一般公開（平成25年4月4日（木）～8日（月））にてこの屏風を新御車寄で展示します。

（注）7日（日）が雨天の場合、新御車寄が蹴鞠会場となるため午前中の展示を中止します。



この六曲一双の屏風「源氏の図」は、旧桂宮家からの伝来のもので、京都御所に保管しています。筆者は狩野尚信と伝えられています。

旧桂宮家では、この他に源氏物語図屏風として、伝狩野永徳筆と狩野探幽筆のものを所蔵していました。（現在三の丸尚蔵館保管）

この屏風の左隻に6場面、右隻に5場面の源氏物語の場面を画かれています。（下記参照）



まつかぜ
（松風）源氏を慕ってきた
殿上人と感興深い宴を
催す

さかき ののみや
（賢木）源氏が野宮の六
みやすどころ
条御息所を訪ねたところ

あかし
（明石）明石君を訪ねて
ゆく源氏

ゆうがお
（夕顔）乳母を訪ね、隣家
の女から歌を贈られる源
氏

すま
（須磨）須磨の浦沖を行く五
節君が源氏の弾く琴の音を
耳にするところ

うつせみ のきばのおぎ
（空蟬）空蟬と軒端萩の囲碁
とそれを見る源氏

屏風 源氏の画(前頁続き)



たまかづら
(玉鬘)筑紫から船で京へ向う玉鬘一行

たまかづら は せ さんけい
(玉鬘)長谷参詣に行く玉鬘一行

はつね
(初音)紫上の御殿で
齒固めの祝い

はなのえん こきでん ほそどの
(花宴)弘徽殿細殿で
おぼろづきよ
朧月夜と出会う

もみじのが
(紅葉賀)源氏と頭中將が
せいがいは
青海波を舞っているところ



花宴



紅葉賀